

# 音楽ホールをめぐる活動の檣

敷地は緑豊かな青葉山丘陵のふもとに位置し東側には青葉山公園と広瀬川があり、将来にわたり開けた景観が保証されています。また、敷地の西側には植栽の施された歩道付きの道路、南側には地下鉄線国際センター駅があり、人々がアクセスしやすく、外からよく見える立地となっています。

今回の計画は仙台市の象徴的な青葉山地区の一角に建つ大きな公共建築であり周辺環境の中に置かれると同時に街並みに大きな影響を与えるものでもあることから周辺環境に合った将来の望ましい街並みへのビジョンを備えたものでなければなりません。

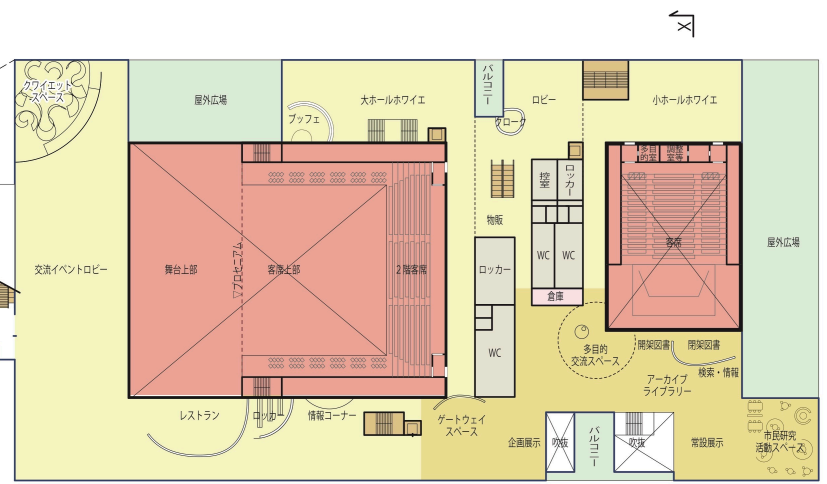
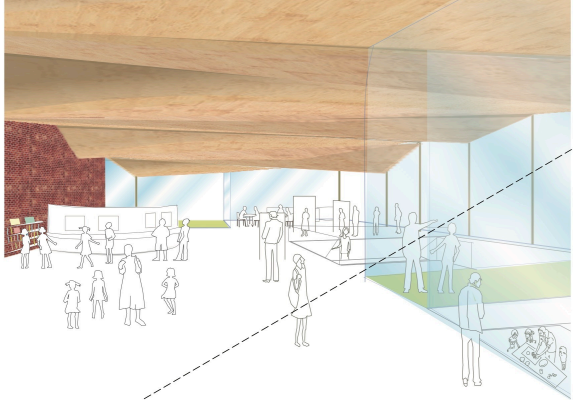
この提案では壁勝ちで閉じた2つの音楽ホールをオープンな活動スペースの「檣」で包むことで生き生きとした変化のあるファサードをつくることを建築構成の主題としています。

緑豊かな周辺環境を建築空間に取り込むと同時に周辺環境に活気をもたらす自然と活力に満ちた次代の青葉山の街並みを導いていきます。



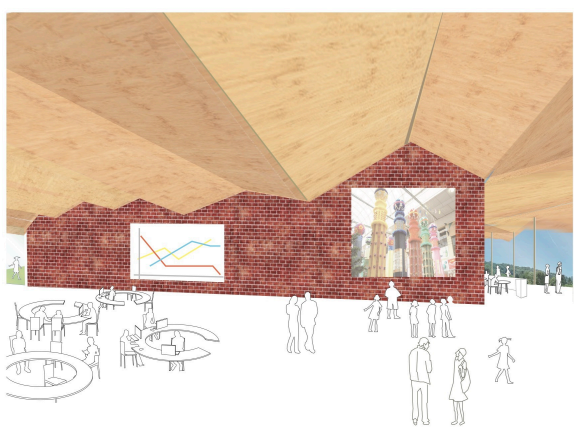
## 震災メモリアル拠点 マルチメディアによる多角展示

- 本、資料、パネル展示に加え、展示情報の入れ替えが容易な液晶スクリーン、プロジェクションなどを使うことで刺激の種類を増やし来館者の五感に訴えます。
- 手すりや壁に本棚を仕込んだり、展示パネルを床から生やしたり、天井から液晶スクリーンを吊るすなど展示情報の設置方法を工夫することで見る人を飽きさせません。
- 交流スペースや研究活動スペースをオープンにし、他の空間と吹き抜けでつなぐことで他分野の利用者との交流を促進します。

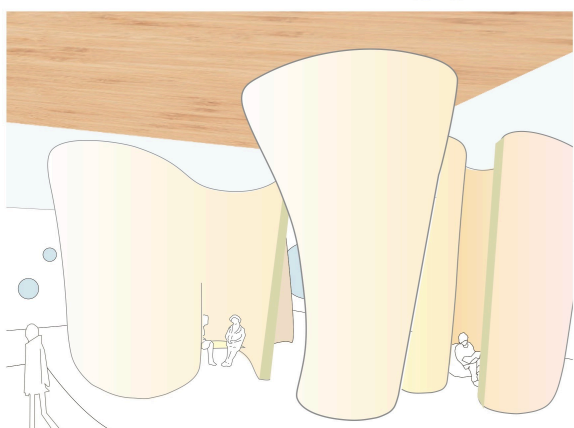


3階平面図

- ### 交流ロビー 木質の曲面屋根が全体を一体化
- 3階で一般来館者の主アプローチを受ける位置に交流ロビーを置きます。
  - 3階には広場、交流ロビー、展示、ホワイエを物理的に仕切ることなく配置します。
  - 連続した木質の曲面屋根が連続した空間に一体感を与え来館者の交流を促します。
  - 交流ロビーからは青葉山公園の緑越しに広瀬川を超えて仙台の街並みが見渡せます。

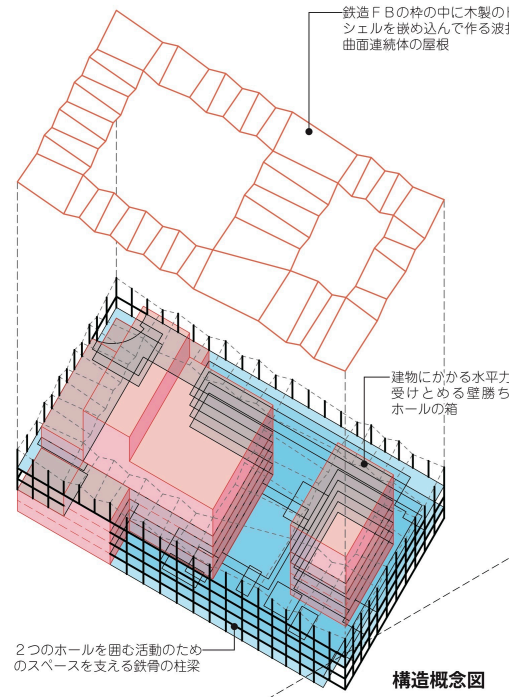


- ### クワイエットスペース 好みの閉じ具合をえらべる設え
- ロビーからスロープを降りるかたちで入るクワイエットスペースには、製作家具のパーティションを用いていくつものセミプライベート空間をつくります。
  - 様々な曲率で蛇行する曲面の吸音パーティションの両側には包まれたような落ち着いた小さな場所がたくさんできます。
  - 利用者は閉じ方や外の見え方など自らの好みに合わせた場所を選んで休むことができます。



## 構造計画図 硬い閉じた箱とオープンな格子

- 建物は閉じた部分と開いた部分がありはっきりとした構成となっています。
- 壁勝ちとなる音楽ホールで建物全体の耐震性を担保し、活動スペースの構造的な自由度を確保します。
- 音楽ホールを包む「檣」の柱・梁の格子の中を仕切って活動スペースをつくっていきます。
- 音楽ホールは質量のあるRC造とし、「檣」部分は透明感の得やすい鉄骨造とします。
- 最上階の屋根は鉄のFBの枠組みに木製HPシェルパネルを嵌め込んで波打つ連続体をつくります。



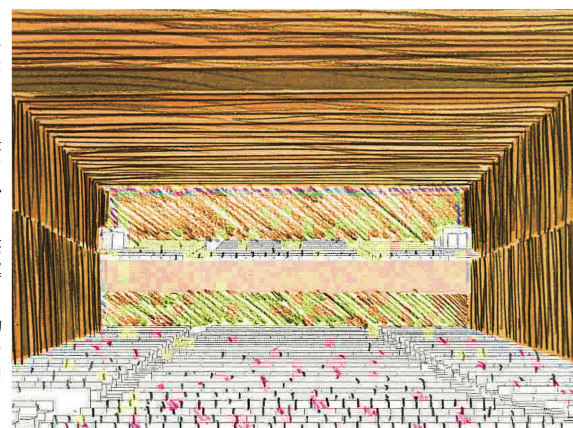
構造概念図



配置図兼1階平面図

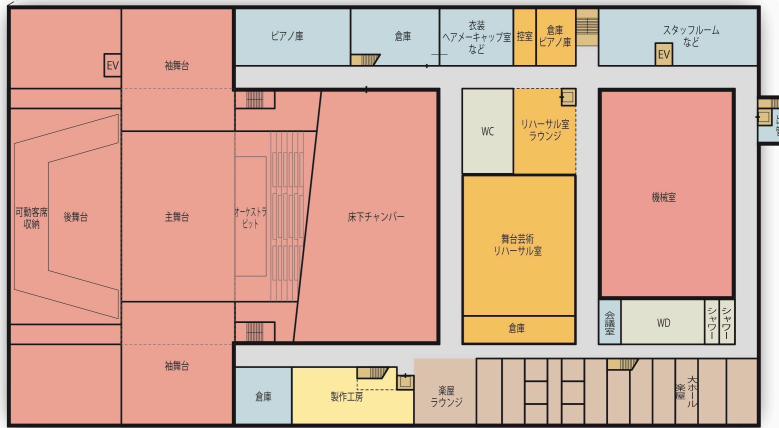
## 平面計画 人の活動に包まれた音楽ホール

- 歩行者の主アプローチを国際センター駅がある南側に設置し、車両の進入を敷地の北西、一般来館者用の駐車場を西側、出演者・関係者のための駐車場と搬入口を北側に配置します。
- 壁勝ちとなる2つのホールのブロックを川に沿って並べて置き、活用エリア・運営エリアなどのオープンな活動エリアでその周りを包みます。
- 一般来館者を受け止める広場エリア、災害文化創造支援・発進エリアを最上階の3階に置き、積層したフロアを分散した縦動線と吹抜けて物理的・視覚的に結びます。
- 下層では公園のある東側には文化芸術創造支援・活用エリア、西側に運営エリアを主に配置します。
- リハーサル室などの高さのある活動空間や吹抜けを利用して活動スペース間に視覚的関係をつくりだし利用者間の交流を促進します。

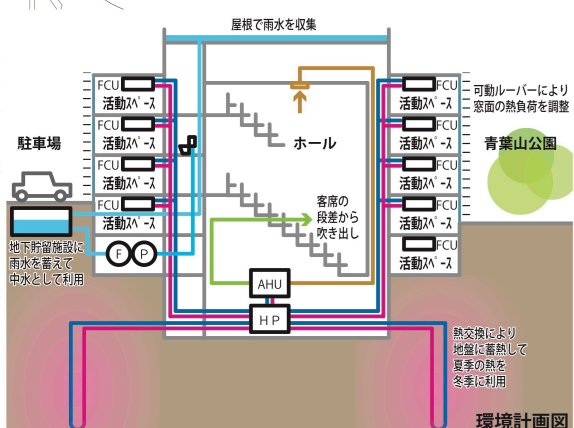


## 大ホールの内部 木に包まれた柔かな音楽ホール

- 仕上に県産の木材を多用し、建物全体で木質の建築空間という通奏低音を守り、ホール内部も木質の柔かな内部空間とします。
- 仕上りに用いる木材は下を暗い色に染め、上に行くほど明るい色とすることで、全体の照度を下げた時に客席が意識から消え、建築空間が浮かび上がるようにします。
- 木質パネルのひだに吸音パネルを仕込み、音の反射と吸収のバランスを調整し残響時間を整えます。



地下2階平面図

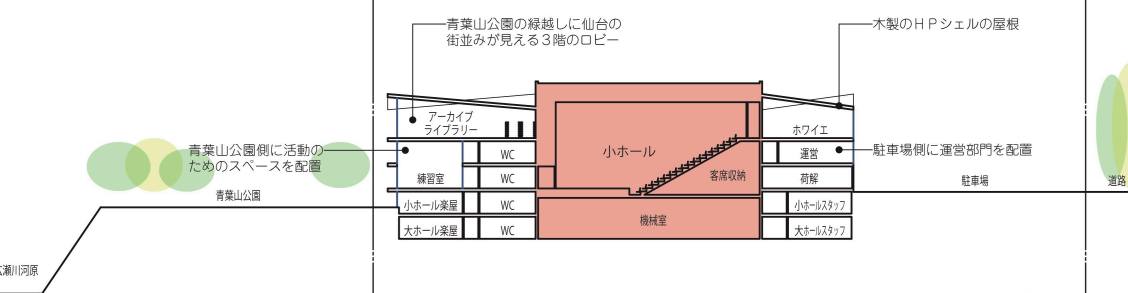


## 環境計画 熱負荷の低減と蓄熱での平準化

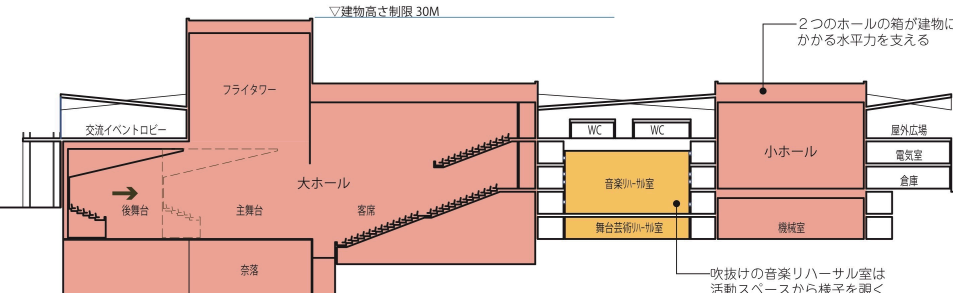
- ガラス面には省エネ硝子と省エネフィルムを採用し、外部に可動ルーバーを設置することで、眺望・日照・熱負荷のバランスを調整し、建物のファサードの人の活動にともなう表情の変化を強化します。
- 空調熱源には地中熱ヒートポンプを採用し、地盤を蓄熱体とすることで、通年の消費エネルギーを低減し、LCC・LCCO2を削減します。
- 前面道路に合わせて高くなった駐車場の地下には雨水貯留施設を設けて敷地内の雨水管理を行い、中水として利用します。

## 断面計画 積層と吹抜によるシナジー効果

- 大ホールの舞台をGL-5Mに設定することでフライタワーの有効高さ35Mを確保しつつ、建物高さを条例規制のGL+30Mに納めます。
- 2つのホールを包むように地下2階、地上3階の「檣」を組んで、活動のスペースを嵌め込みます。最上層の屋内広場・交流ロビー・ホワイエからは、青葉山・広瀬川・仙台市街のパノラマを見渡すことができます。



X-X断面図



Y-Y断面図

## 動線計画 多くの縦動線を持つ動線体「檣」

- 一般来館者用には南側の国際センター駅から広場・ロビーのある最上階へと直接上がるアプローチと、一般用駐車場の西側、青葉山公園のある東側からの出入口があります。
- 出演者・関係者用には北側に専用駐車場、出入口、搬入口を設けています。
- 出入口、縦動線を分散して配置することで利用者の回遊と交流を促進します。